

英米文化学会 第 175 回例会のお知らせ
(例会担当理事：河内裕二)

日時：2025 年 6 月 14 日（土）午後 3 時 00 分～
午後 2 時 30 分受付開始
場所：武蔵大学江古田キャンパス（東京都練馬区豊玉上 1-26-1）
11 号館 2 階 11204 教室 & Zoom*

*武蔵大学江古田キャンパスを会場として使用し、同時にオンライン(Zoom)のよるハイフレックス開催の予定。

非会員で Zoom 参加を希望される方は、お名前とご所属を明記し参加希望のメールを事務局 MichioTajima(at)SES-online.jp（注：@を(at)に書き換えてあります）までお送りください。ミーティング ID とパスコードをお伝えします。

開会挨拶

(3 : 00 -)

英米文化学会会長 田嶋倫雄（日本大学）

研究発表

1. 英語学習サポートの利用実態と言語支援サービスの活用：外国語大学における学生のニーズ分析

(3 : 10 - 3 : 50)

発表 小西文香（日本大学）

司会 石川英司（城西大学）

2. 1980 年代キース・ヘリングと大衆文化、政治そして現代

(4 : 10 - 4 : 50)

発表 君塚淳一（茨城大学特任教授）

司会 河内裕二（尚美学園大学）

閉会挨拶

(4 : 50 -)

英米文化学会副会長 永田喜文（明星大学）

発表抄録

1. 英語学習サポートの利用実態と言語支援サービスの活用：外国語大学における学生のニーズ分析

小西文香（日本大学）

大学が提供する学修支援サービスの利用率は全体として低いことが、先行研究において報告されている。そこで本発表では、外国語を専門とする大学で提供される英語学習サポートおよびその他の言語学修支援サービスの利用状況を明らかにし、英語学習サポートの利用促進に向けた方策を検討することを目的とする。独自に作成した質問紙を用いて調査を実施した結果、回答者 424 名のうち、英語学習サポートの利用者は 7.3%にとどまった。英語学習サポートの利用者は、他の学内言語学修支援サービスも併用しており、目的に応じてサービスを柔軟に使い分けている傾向が見られた。一方、TOEIC410 点未満の学生 54 名のうち、46 名(85.1%)は英語学習サポートを利用していなかったが、スピーキング力の向上を目的とした他の支援サービスを積極的に活用していることが明らかとなった。以上の結果から、学生のニーズに即した支援を強化することが、利用促進に繋がる可能性があると論じる。

2. 1980 年代キース・ヘリングと大衆文化、政治そして現代

君塚淳一（茨城大学特任教授）

1960 年代から幼少期を過ごし、その後グラフィティ・アーティストとして活躍したキース・ヘリング(1958-1990)の作品には、時代からの影響や彼の主張が込められている。それはアート界に限らず、政治、文学、音楽など多岐に渡るもので、アンディ・ウオーホル(1928-87)、ウィリアム・バロウズ(1914-97)、マドンナ(1958-)を始め、彼の人間関係にも複雑に絡み合っていた。1960 年代から 70 年代という時代は、カウンタカルチャー、差別撤廃の公民権運動、ヴェトナム反戦などに始まり、その後、オイルショック、景気後退、離婚率の増加と続いた。そして 1980 年代に向かいニューヨークではクラブカルチャーが開花し、ポップカルチャーの中に同性愛も浸透したが、AIDS 感染症が時代を蝕んでいた。2025 年に返り咲いたトランプ大統領が 1980 年代のレーガン政権（在位:1981-89）を手本にしている今、キース・ヘリングが作品で我々に託した遺志も改めて読み解きたい。